

山行番	個人山行
日時	2013. 8. 10 (土) ~ 8. 14 (水) = 全て晴れまたは快晴
山域	北アルプス・黒部五郎岳～雲ノ平～薬師岳 (最高点=薬師岳 2926m)
コース	
1日目	折立 8:40～太郎平小屋 13:00～薬師峠 13:30 (テント泊)
2日目	薬師峠 5:00～太郎平小屋 5:20～北ノ俣岳 7:30～黒部五郎岳 11:15～ 黒部五郎小屋 13:15～三俣山荘 16:30 (テント泊)
3日目	三俣山荘 5:00～祖父岳 7:45～雲ノ平山荘 9:30～高天原峠 11:45～ 高天原山荘 12:30 (小屋泊)
4日目	高天原山荘 4:45～高天原峠 5:35～B沢出会 7:15～薬師沢小屋 8:45～ 太郎平小屋 11:35～薬師峠 12:20～薬師岳山荘 14:50 (小屋泊)
5日目	薬師岳山荘 4:00～薬師岳 5:20～薬師峠 8:00～太郎平小屋 8:25～折立 11:30～帰静
標高差	折立登山口 1350m～薬師岳 2926m = 約 1576m
参加者	諏訪部 = 1名

私の勤務する会社の夏休みはいわゆる盆休みであり、8月13日から16日と決まっている。今年は1日公休を取れば土日を含めて9連休になる好機だった。せっかく長く山に入れるので私にとって未踏の地を訪ねることにした。そしてあれこれ考えた末に今回の計画に落ち着いた。つまり雲ノ平を中心として周遊し、途中で秘湯高天原温泉に入るプランだ。もっと欲張った計画も可能だったが自分の体力や予備日のことも考えて前夜発4泊5日にした。

前日19:30に富士市の勤務先を車で出発した。国道52号線を北上して中央道を松本まで走り、平湯温泉の先の「道の駅・上宝」駐車場で車中泊した。

[1日目]



始めは樹林帯の登りが続く

ニッコウキスゲや綿毛になったチングルマが現れる。天気はこれから良くなっていくようだがまだ山の上部は雲の中だ。

久しぶりの重荷に喘ぎながら太郎平小屋に

8月10日、見座発電所から山道に入り、有峰林道を走って登山口である折立に着いた。噂通り車が一杯だ。私は最も奥の臨時駐車場に車を置いた。

身支度をして直ぐに出発。樹林帯の急登で汗を出して辛抱すると高原状の整備された

道になる。



玉石を敷き詰めた歩きやすい道になる



設備の整った太郎平小屋



薬師峠キャンプ場

13:00着。ビールを仕入れて20分先にある薬師峠キャンプ場に向かう。既に相当な数のテントがあり、適当な平地がない。仕方ないので石をどかして足で地ならしてテントを張った。ここには管理棟があり、管理費の徴収とトイレ清掃をしている。ビールも販売していた。水は薬師沢から引水してあり、豊富で美味しい。またトイレは男女別で腰掛け式で紙もあった。

[2日目]

朝テントを撤収し、太郎平小屋を經由して太郎山



北ノ俣岳下の花畑。チングルマが多い

(2373m)に向かう。山頂は縦走路からちょっと入った所にある。縦走路に戻って先を急ぐ。周



北ノ俣岳山頂

囲はチングルマやハクサンイチゲの群落になってきた。この辺りは雪が大量に残っていて水気を好む花々に最適な場所なのだろう。花畑の中を登って行くと北ノ俣岳(2661m)に着く。恥ずかしながら私はこの山を知らなかった。しかし花が豊富な良い山であることを今回知った。



桐生さんと共に黒部五郎岳山頂にて

北ノ俣岳の先辺りで天気がグングン良くなってきた。目指す黒部五郎岳(中ノ俣岳、2840m)を始め、水晶岳や笠ヶ岳の山頂も見えてきた。何度かのアップダウンを繰り返し、黒部五郎岳の肩へ向かう。

北ノ俣岳から相前後して登って来た単独男性と一緒に休憩した時の話で「私、この黒部五郎で百名山達成なんですよ」と言う。私は「それはおめでとうございます。それでは山頂に居合わせた人達にも呼びかけてみんなで祝いましょう」と応えた。



もう一人現れた百名山達成者

鞍部にザックをデポしてカメラと水を持って二人で山頂に向かう。この人は埼玉県上尾市に住む桐生さんと言ひ、68才だそう。若い頃から山に登っていたので中断後ここ数年で百名に達したとのこと。山頂から下りてくる人にも私が声を掛けて祝ってもらひ、山頂でも他の登山者に祝ってもらった。桐生さんとお互いのカメラで記念撮影をしていると「ありがとう百名山」と自作した看板を掲げて記念撮影する60才代

の女性が現れた。「ひょっとしてあなたも百名山達成ですか？」と問うと「そうです」とのこと。奇しくも百名山達成者が二人ここに居ることになった。当然二人での記念撮影も行った。この女性は10名程度のツアーで来ていた。若い頃15座登っていて再開後10年で達成したとのこと。どなたも頑張っている。



黒部五郎カールのコバイケイソウ

黒部五郎小屋に泊まると言う桐生さんとはここで別れ、私は先に黒部五郎カールを下った。ここは豊富な残雪が残り、コバイケイソウの大群落が出現していた。チングルマも多い。カールの底はきれいな水が流れ、ちょっとしたオアシスになっていた。

黒部五郎小屋には13:15着。ここでトイレ休憩をして三俣山荘に向かう。かなり



黒部五郎小屋

の急坂だ。森林限界を抜けるとここにもあちこちに花が咲いていた。今年が当たり年なのかどうか分からないがやたら花が多い。「見飽きるほどの数」と言ったら大げさかも知れないがそれほど多い。特にチングルマの数が半端ではない。

私は三俣蓮華岳には2002年の夏にブナ立尾根から縦走して登っているので山頂は割愛し、ここも花で有名なカール巻き道に行くことにする。ここも水が豊富でハクサンイチゲやミヤマキンポウゲの群落がすごい。左手には明日行く雲ノ平が見

えている。鷲羽岳が前方に迫るとようやく三俣山荘だ。

このテント場も既に満員状態だったが通路の隙間の狭い場所を見つけ、私の2人用のテントを張った。今日は地ならししなくて済んだ。



鷲羽岳と三俣山荘

とで「流れた！」とか「ワー！」と言った歓声があちこちから聞こえた。私は睡眠導入剤を飲んで熟睡した。

[3日目]

完全に晴れモードに入ったようで翌12日は朝から快晴だった。テント撤収後、黒部川源流に下り、雲ノ平の一角、日本庭園に向かって登って行く。岩がゴロゴロした急登だ。第1雪田に出るとようやく傾斜が緩くなる。この当たりの這松を指して日本庭園風と言うのだろうか？ちょっと違うな。しかし雲ノ平の他の地名もそうだが、命名者の伊藤正一氏が適当に付けたものだから人名と同じで単なる呼び名だと思えば納得できる。

どこが第2雪田か分からない(それとも既に雪が消えていたのか?) まま祖父岳(ジイダケ、2825m)への分岐点に着いた。ここにザックをデポして祖父岳に登る。昨日対岸か

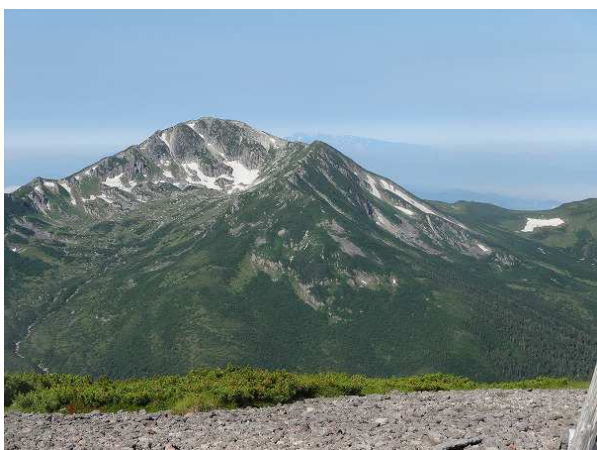
夕刻、槍ヶ岳方面の雲が取れて穂先から左に伸びる北鎌尾根がくっきり見えた。夜はペルセウス座流星群最大日というこ



アーベントロートに染まる槍ヶ岳



第1雪田近くの登山道。チングルマが花盛り



前日登った黒部五郎岳が大きい



祖父岳山頂にて槍・穂高連峰を望む

ら見た時はこんもりした楽そうな山に見えたが結構きつい登りだ。30分ほどで登り着いた山頂は素晴らしい展望台だった。

赤牛、水晶、鷲羽、三俣蓮華、黒部五郎と続き、鷲羽岳と三俣蓮華岳の奥には槍・穂高連峰。北西方向には剣と立山、それに続く五色ヶ原から薬師岳が見え、黒部五郎の



鷲羽岳の右奥に槍・穂高連峰。三俣蓮華岳の右奥に笠ヶ岳



薬師岳の奥に後立山連峰。右手前奥に赤牛岳と双耳峰の水晶岳

右奥には白山が見えている。

祖父岳からキャンプ場を通過し

て雲ノ平山荘に向かう道は

植生保護のために通行止めになっていてスイス庭園側を迂回する。どこがスイス風なのか分からなかったが、水晶岳が間近に見え、山頂の人数も分かるほどだった。

湿地帯の木道を歩いて洒落た雲ノ平山荘に到着。食堂にはオーディオ評論家、長岡鉄男氏設計によるスーパースワン（又はフラミンゴか？）スピーカーが置いてあり、音楽が流れていた。伊藤正一氏の跡を継いだ息子の伊藤圭氏の趣味だろうか？

ここにザックを置いて雲ノ平の2つ目のピーク祖母岳（バアダケ、2560m）に至る



雲ノ平山荘



こんな所に拘りのスピーカーが…

木道を歩く。この辺りをアルプス庭園と言うらしいが何がアルプス風なのか良く分からなかった（飽くまでも単なる呼び名としよう）。



水晶岳山頂遠望

この日は時間的に余裕があるのでアラスカ庭園にも行って見たかったがそれは薬師沢小屋への道の途中らしい。かなり下った先のようなので祖母岳から「あの辺りがそれか？」と眺めて良しとした。

雲ノ平山荘に戻り、高天原峠を目指す。少しの急登を我慢すると前方に太陽光パネルとアンテナが見えた。近づいて看板を見ると関西電力の設備であると記してある。地図にはロボット雨量計となっていた。周辺はミヤマイワニガナが咲き誇っていた。そ

の先に素晴らしい景色が待っていた。雪田が残り、その解けた水で池糖が現れ、その先に大きな薬師岳が迫っている。正に「雲上の楽園だ!」と思った。ロボット雨量計近くの平地にテントを張って数日のんびり過ごしたら極楽だろう。ここを少し下った所に「奥スイス庭園」の看板が立っていた。「奥スイス庭園」の名前はともかくとし



ロボット雨量計



ミヤマイワニガナ

て雲ノ平では祖父岳山頂に次いで推薦できる絶景の地だ。

道は一旦湿原地帯になり、直ぐに樹林帯の急坂の下りになった。下から小さなザックを背負った人たちが登ってくる。「雲ノ平から高天原温泉に日帰りですか？」と訊ねると「そうです。せっかく温泉に入っても汗だくですけどね」との返事。往復7時間の日帰り温泉は良い思い出になるだろう。



奥スイス庭園から見た薬師岳

こっちも早く温泉に入りたくて気が焦る。鉄はしごもある急な下り坂に飽きたころ高天原峠に降り立った。ここから緩い下りで岩苔小谷に出、橋を渡って進むと岩苔乗越への道を分ける。なおも進むと小さなワタスゲが生えた湿原になり、その先に広大な高天原が待っていた。水晶岳と赤

牛岳の直下、周囲をシラビソに囲まれた正に「神住む場所」と言ってもおかしくない素晴らしい所だった。



ワタスゲの実

高天原山荘は2年前に新築されたらしいが小さな小屋であり、稜線にある大きな小屋前のあの喧噪がない。しかも発電機がないので実に静かだ。ちなみに夜の明かりは灯油ランプだ。



高天原湿原



高天原山荘

まずはビール。そして宿泊手続き後、寝場所を確認し、ザックを置いて高天原温泉



高天原温泉全景



加水していないので熱い「河原の湯」

に向かう。原生林の中を歩いて20分、大きな河原（温泉沢）に着くと右岸側にある小屋掛けが目に入った。看板に「美人の湯」とあり、女風呂のようだ。左岸には小さな露天風呂（河原の湯）があり、2人の男性が「熱い、熱い」と言って沢の水を足して



程良いぬるさのからまつの湯

いた。ここは敬遠して右岸上流にある1坪ほどの脱衣場に向かう。その脇の露天風呂（からまつの湯、背後に唐松の大木あり）がぬるめと聞いていたのでここに入る。一応混浴だがさすがに真っ昼間に混浴に入る女性はいない（水着着用なら可能だろう）。既に入っていた人たちと共に汗を流す。温度計があったので計ったら38度だった。やはりちょっとぬるめだが熱いのが苦手な私には丁度いい。3日間風呂に入っていなかったので洗髪も髭剃りもした。ビール持参で乾杯するパーティもいて和む。

下着を新しいのに着替えてゆっくり小屋に戻る。小屋の夕食は質素だった。自家発電機がないので冷蔵庫がないのだろう。だから食材は保存食だけになってしまうのかも知れない。食堂が小さいので食事は2回に分けて振る舞われたがそれほど混雑していた訳でなく寝返りが打てないなんてことはなかった。

[4日目]



B沢出会で遭遇した沢屋の連中

対岸には数人の沢屋がいてザイルを使ってこちら側（右岸）に渡って来た。地図を見たらB沢出会から薬師沢小屋まではいわゆる「黒部川・上ノ廊下」の一部だった。先を



くさりの掛かったへつり

急ぐ彼らに訊いたら、昨晚は途中の沢すじで

翌13日はテラスでパンと紅茶の簡単な朝食を取り、高天原峠に登り返す。ここから黒部川に向かって樹林帯の下りが始まる（大東新道と呼ぶ）。上流からA沢、B沢と名付けてあるようで初めにE沢を渡る。D沢、C沢と渡った後、次のB沢沿いに黒部本流に降り立つ。ここがB沢出会いだ。黒部本流の



高巻きのはしご



白竜峡を思わせる花崗岩の急流地帯

ビバーク、今日中に上に抜けるとのこと。全身濡れながらの遡行を私もやってみようとは思わないが彼らには憧れを感じた。

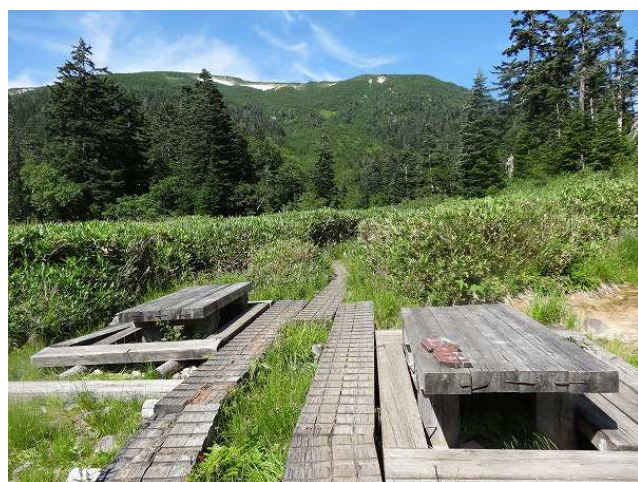
B沢出会いからA沢出会いを経由して薬師沢小屋に向かう。高巻きやくさりの張った「へつり」もあってちょっと楽しめる。下ノ廊下の白竜峡を思わせる白い花崗岩の狭い急流箇所もある。白竜峡もそうだが花崗岩は硬いので砕けずに耐えるためそこだけ流れが狭いまなのだろうと勝手に推理した。



黒部本流と薬師沢が合流する地点に建つ薬師沢小屋



赤い吊り橋と薬師沢小屋



カベツケ原

け流れが狭いまなのだろうと勝手に推理した。

赤い小さな吊り橋で黒部川を渡るとちんまりとした薬師沢小屋に着く。この辺りは釣り師も多い所らしい。小屋の看板には「イワナはリリースを！」と記してあった。ここでビールを飲んだら動けなくなるので「何かジュース類を」と頼んだら「もうビールしか在庫がないんですよ」とのこと。小屋の直下にはへりの荷下ろし場所があったが希望通りにはフライトしていないのだろうか？

薬師沢小屋の直ぐ上はカベツケ原（かべつけがはら、カップが化ける原っぱの意）と呼ばれるきれいな笹原だ。うるさいことを言わなかった昔はここにテント泊できたらしい。

カベツケ原から先はずっと木道が続く。それに飽きた頃、ようやく太郎平に辿り着いた。この小屋は物が豊富だ。紙パック入りの野菜ジュースと牛乳を飲み、昼食にうどんを頼んだ。そして初日と同様に薬師峠のキャンプ場にテントを張った。まだ時間



愛知大遭難碑のケルン

が早いので寝袋やマットなど不要な物をデポして薬師岳（2926m）に向かう。可能ならば日帰り、ダメならば薬師岳山荘泊まりという計画だ。しかし歩き出して直ぐに日帰りは不可能なことが分かった。この歩きのペースではコースタイムである5時間半



チングルマやハクサンイチゲが咲く花畑



シナノキンバイ

で往復できない。あわてずにじっくり登ることにした。途中の薬師平には1963年1月に起きた愛知大学山岳部員13名遭難を慰霊する大きなケルンが立っている。登山口の折立には遭難の様子を記した物があるがここには説明書きが何もない。なぜだろう？



真新しい薬師岳山荘

薬師平の上はここも雪が残り、明るい南斜面は花畑になっていた。猛吹雪の中、道を失った愛知大学生が間違っ

て下りてしまった東南稜をバックに花の写真を何枚も撮った。薬師岳山荘は3年前に建て替えられたそうで玄関を入ると日本旅館と間違えるほどきれいだった。あまりのきれいさに「これなら飯も旨かろう」と思い、素泊まりのつもりが夕食付き

にしてしまった（これは正解だった）。夕食前、同宿の男性と食堂でビールを飲みながら山談議に花を咲かせた。

夜は外に出て星を眺める。天の川が良く分かり、流星はもちろんのこと他の人の指摘で人工衛星も2個見ることができた。やはり星空も山の楽しみの一つである。



薬師岳山荘の夕食。トンカツにおでん

[5日目]

翌日は「山頂でご来光を」ということでまだ暗い内から歩き始めた。ご来光も慣れ

てくるときさすがに「ワー！」と言う感動はないが、太陽の上端が溶接光のようにパッと現れるのは神々しいものだ。

薬師岳山頂には立派な祠があり、その名の通り薬師如来像が安置してある。山頂からの眺めは正に絶景だ。剣、立山を始め後立山連峰から赤牛、水晶、鷲羽と続き、槍・穂高や乗鞍、御嶽も見える。

名残は惜しいが盆休みの帰りの道路を考えるとそうのんびりもしてられない。早め



船窪岳辺りから昇るご来光



遠く剣や後立山連峰を望む



薬師岳山頂の祠

に下山を開始した。

薬師峠でテントを撤収し、4回目の通過となる太郎平小屋を経て折立に降り立った（ダジャレのようだ）。

折立の駐車場は相変わらず車が溢れていた。行きと同じ道を走り、平湯温泉バスターミナル内の日帰り温泉（研究不足で芸がないが）に入って帰路に就いた。幸い途中大した渋滞もなく家に着いた。

[雑感]

1. 私にとってこの山域は初めてだった。それはアプローチが長いからだったが安房トンネルの開通でそれが近くなった。こんな良い所だったらもっと早く行くべきだったと反省している。
2. この山域は花が多い。これはもっとアピールしても良いと思う。
3. どこも水が豊富で旨い。
4. 「若者が山に帰って来た」と確実に言える。特に太郎平周辺は中高年は場違いな雰囲気さえ感ずる。これは喜ぶべきか悲しむべきか？
5. 木道が多いのに驚いた。整備も大変だろうと思う。これほどの保護精神と体制があるなら世界自然遺産にできる可能性は充分あると思う。
6. これだけ足に負担を掛けるとテントや小屋に着いた後、足が痙攣するのが常だったが今回はまったくそれがなかった。また下山翌日も何の苦もなく階段を下りられる。

今回試したのはアミノバイタルプロ（味の素）を1日2袋飲用と塩熱飴スポーツ（ミドリ安全）を1日4個舐めて歩いたことだ。どちらかが奏功していると思われる。

7. 熊よけの鈴は一種の公害だ。かなり前に「こんにちは公害」と称して山岳誌上で話題になったが熊よけ鈴もそろそろ問題にした方が良いと感じた。我々は風の音や水の流れる音、鳥の鳴き声などを聞きたくて山に入っている。それなのにチンチン、カラカラという鈴の音はラジオや携帯音楽プレーヤをガンガン鳴らしながら歩いているのに等しいやかましさだ。「ザックに入れておいて熊が出たら着けたらいかがですか?」と言いたくなるほどだ。これ見よがし（聞きよがし?）なのか誰も彼も着けている。用もないのにロングスパッツを着けている輩はやがて意味もなく暑苦しいのに気がついてやめるだろうが熊避け鈴もそうなるのだろうか?そして熱くてバテている本人もうるさく感じないのだろうか?実に不思議だ。

以上



ミヤマリンドウ



ウサギギク



ミヤマダイコンソウ



ハクサンイチゲ



ハクサンフウロ



ミヤマアキノキリンソウ